

*まんまワークより

() に適当な語句を入れるか、または選びなさい。 <4点×25> (体温) 度

100

- (1) 1種類の物質が2種類以上の別の物質に分かれる化学変化を①(分解)という。加熱による①を、特に②(熱分解)という。
- (2) 炭酸水素ナトリウムは①(白い・黒い)粉末で、水に溶け②(にくい・やすい)。
- (3) 炭酸水素ナトリウムを加熱すると、試験管の口に液体の①(水)がたまる。①ができたことは、試験管の口に②(塩化コバルト)紙をつけると、③(赤・青)色が④(赤・青)色に変化することからわかる。
- (4) 炭酸水素ナトリウムを加熱すると、気体の①(二酸化炭素)が発生する。①ができたことは、発生した気体を石灰水に通すと、②(赤く・白く)にごることからわかる。
- (5) 炭酸水素ナトリウムを加熱して、試験管に残った白い物質は①(炭酸ナトリウム)である。この物質は水に②(よく・少し)溶け、無色のフェノールフタレイン溶液を加えると、濃い③(赤)色になることから、この物質の水溶液は強い④(アルカリ)性であることがわかる。
- (6) 試験管の口は、発生した水が試験管の①(口・底)の方に流れないように、少し②(上げる・下げる)。
- (7) 石灰水からガラス管を抜くのは、火を③(消す前・消した後)に行う。
- (8) 酸化銀は①(白・黒)色の粉末である。酸化銀を加熱すると②(白・黒)色の③(銀)ができる。③が金属であることは、こするとぴかぴか④(光る)こと、たたくとうすく⑤(広がる)こと、⑥(電気)をよく通し、熱をよく伝えることからわかる。
- (9) 酸化銀を熱して発生する気体は①(酸素)である。①が発生したことは、火のついた線香を入れると、②(激しく燃える・消える)ことからわかる。